



右隻



左隻

6 井出玉川・大井川図屏風 狩野探幽 六曲一双

紙本着色 江戸時代(十七世紀)
各本紙一六七・〇×三三八・八

旧桂宮家に伝来した屏風。「新古今和歌集」に詠まれた和歌二首を題材にしている。

右隻は井出玉川を詠んだ藤原俊成の「駒とめてなほ水かはん山吹の花の露そふ井手の玉川」(春歌下一五九)、左隻は嵐山から流れ来る大井川を詠んだ藤原資宗の「筏士よ待てこと問はむ水上は いかばかり吹く山の風ぞ」の歌意を表している。

各隻に「探幽法印筆」「守信(瓢筆印)」の落款印章より、探幽が寛文二年(一六六二)に法印に叙せられて以後の作品と判断される。やまと絵の手法を主体にしながら、漢画的な描写も取り込み、情感豊かな趣の画面に仕上げている。

この二図は、林守篤が著した画論書「画筌」(正徳二年(一七一三)自序、享保六年(一七二二)刊行)に、「佐野渡」図と共に、探幽の歌絵図様三図として紹介されている。そして、探幽以後では、探信守道の屏風、あるいは晴川院養信の江戸城障壁画の中に、これらをモデルとした図様があることから、一つの伝統的図様として継承されたことが窺える。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

江戸の美意識 — 絵画意匠の伝統と展開

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 28

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十四年三月二十六日発行

©2002. Museum of the Imperial Collections